

二つのポスト・モダン都市像 ―世界都市と縮小都市

表題は加茂利男・徳久恭子編『縮小都市の政治学』（岩波書店、2016年1月）第1章加茂論文である。加茂先生には、大阪市大の大学院の頃からお世話になった。若いときから「きれ味」鋭く、宮本憲一先生を中心とした堺・泉北コンビナートの共同調査などで、多くのことを学んだ。加茂先生は著名な政治学者であるが、なにか「兄貴」のような感じで親しみやすく、大学院の頃から「加茂さん」と呼んできた。昔から加茂さんの「かも」になってきた「かも」しれない。

加茂さんの本は出版直後に読むことが多く、いつも新たな知見と刺激をもらった。今回、久しぶりに加茂論文をじっくり読むことができた。さすが加茂さんらしく、「世界都市と縮小都市」について鋭い指摘が続いた。とりわけ示唆をうけた箇所をメモ書きしておきたい。



都市は文明の鏡である。都市のかたちや機能は、その都市を生んだ文明の性質を表現する。だとすれば、「モダン」から「ポスト・モダン」ないし「新モダン」への文明の転換を、都市の姿にみることはできないか。この転換は、都市にどのような新しい相貌を与えつつあるのだろうか。

グローバル化の趨勢のなかで、世界都市といわれるグローバル経済の中核都市へ、国境を超えた経済活動や人口の集中と都市的集積がおこっていることは、動かしようのない事実である。

グローバル化の進展は、近代つまり「モダン」の時代からの趨勢であった。一国内での都市化や集中のメカニズムに代わって、グローバルな規模での都市・地域間関係が出現させた。モダン都市の一国規模での成長が止まり、代わって「世界都市」があらわれた。この意味で「世界都市」は都市における「ポスト・モダン」化の表現といえよう。世界都市は、無数のエスニック・グループがひしめき合う、大規模な都市空間であり、文化的な差異性・多様性に満ちた空間である。また、階層的にも無数のグループが共存し、棲み分け合い、分裂や対立、排除と包摂の関係が複雑に交錯する世界でもある。

都市・地域社会の縮小が、近代化・工業化を終えた国や都市の新たな社会問題になってきたのである。工業化に伴う都市化が「モダン」時代の趨勢であったとすれば、都市の縮小はポスト・モダンの社会変化だといえる。

大都市圏規模の稠密で一体的な都市的集積に代わって、多様な規模・密度・住民構成

やカルチャーを持つ集積群が島のように広がる新しい姿の都市世界が出現
歴史のマクロ・トレンドの変化の結果として、一方に世界都市、他方に縮小都市という
2つのポスト・モダン都市の姿が浮かび上がってきているのではないか。

人口は労働力という面から見れば生産要素であり、居住者という面から見ると消費や
コミュニティ形成の要因であるので、それが増加するか減少するかは、都市の経済活動
や社会的活力に重大な影響を与える。

東京は合計特殊出生率では最下位であり、人口生産力が最も低い。にもかかわらず、
人口増加率では47都道府県中1位である。すなわち、東京の人口増は、もっぱら他
地域からの移動によるものである。出生率の高い地方から人口が移動することによって、
東京の都市的集積力が維持されているのである。

人口減少というマイナス・サム状況の下で都市地域間の人口獲得ゲームが熾烈化して
いるともいえる。個別の都市は、単独で集積を強化・拡大したり、縮小を防ぐ政策よ
りは、広域での連携や統合体をつくって集積を維持・拡大する戦略にシフトしている。

国や都市の経済力や影響力を強化していくには、単一都市を越えた圏域単位の大きな
集積をつくっていくことが必要になっており、そういう動きが世界各国で進んでいる。

縮小都市は、人口減少を緩和するために、産業構造を転換してこれまでの製造業に代
わる「創造産業」、福祉、教育、医療、観光産業などの立地や拡大をはかり、これらの
産業ではたらく人々の需要に適合する住宅の供給や環境・アメニティの整備をはかるこ
とで、都市の縮小を「均衡ある縮小」ないし「創造的縮小」の方向へ誘導する戦略を模
索している。本書は、2つのポスト・モダン都市の対照を意識しながら、主として縮小
都市に焦点を当てて、事例研究と比較分析を試みたものである。

本書では縮小都市のなかでもとくに港湾都市を検討してみたい。

港湾都市は、その性質上外部からの影響とそれに対する都市の反応によって、その消長
が左右されてきた都市。港湾機能と結びついて形成された商工業などの都市的機能の
動向によっても、その盛衰に影響を受けざるをえないのである。

港湾機能は、世界都市と同じくグローバルなつながりをもっており、国境を超えた競
争の中でそのシェアが左右されるため、国際港湾競争は熾烈になった。

港湾競争における競争的地位を強めた都市は、都市として成長し、港湾としてのポジ
ションを低下させた港湾都市は、都市的集積を弱めて縮小する。世界都市と縮小都市の
コントラストと同じことが、港湾都市の間でおこっているのである。

港湾都市は、港湾政策と都市縮小対策の両面で、垂直的・水平的な政策連携を必要と
するようになっているのである。

(2016年4月17日)